

施設入所している高齢者および障がい者の衣生活における問題点
—施設実習学生の視点からの把握—

小松恵美子

1. はじめに

自分らしい衣生活を送ることは、社会に生きる人間にとって大切なことである。裸だった人間がなぜ被服を着始めたのか、その理由については諸説あるが、中でも有力と考えられているのが「身体装飾説」である。現代の我々にとっても、被服が持つ「装飾審美上の役割（自己表現）」は欠くことができない（表1）。ではなぜ、自分らしい衣生活を送ることが社会に生きる人間にとって大切なのか。それは、おしゃれをすることは、マズローの欲求の階層理論で最も高次の「自己実現欲求」を満たす行為だからである¹⁾（図1）。現在、既製服は大量に生産、販売され、価格も高いものから安いものまで幅広くある。一見誰もが自分らしい満足できる被服を手に入れられ、自己実現できる環境が整っているかに見えるが、果たしてそうだろうか。

既製服は、全国的な計測結果を基に制定された、日本工業規格（JIS）のサイズや体系区分に合わせて作られている。しかし、実際の個々人の身体サイズは様々であるため、どの部位の寸法もぴったり適合する既製服を買い求めるのが難しい場合もある。特に年齢を重ねた身体や、障がいを抱えた身体の場合は、個人差が大きいため規格のサイズでは合いにくい。加えて、脱ぎ着しやすい等の機能性も重要となってくるので、選択肢はさらに狭まる。その結果、「着脱可能で小さくない」という、着るための最低限の必要条件を満たす既製服で妥協せざるを得ない場合が増える。色柄や形などにこだわって自分らしい衣服を手に入れることは、あきらめなければならない。これだけ既製服が店頭にあふれているのに、高齢者や障がい者にとっては、満足のいく被服が十分に供給されていないのが現状である。

日本は既に高齢社会に入っている。高齢者人口は年々増加し、その中には加齢や病気による障がいを抱えた人も少なくない。年を取っても障がいがあっても、自分らしい衣生活が送れるようにするためには、ユニバーサルファッションを実現させる必要がある（図2）。ユニバーサルファッションとは、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、すべての人が快適に生活できるファッション環境のことである。ユニバーサルファッションには、能力の活性化、QOL（生活の質）の向上、社会参加の促進、の三つの効果があると考えられている²⁾。ユニバーサルファッションの実現によって、その人が本来持っていた感性や能力を引き出すことができるため、社会の活性化につながると考えられる。

筆者は福祉系大学および専門学校において、高齢者や障がい者の被服についてユニバーサルファッションの視点から考える授業を行ってきた。しかし学生の関心は低く、高齢者や障がい者が抱えている問題を認識させることの難しさを感じてきた。本報では、ユニバーサルファッションを実現するための基礎的研究として、施設に入所している高齢者および障がい者の衣生活における問題点を把握することを目的に、施設実習を終えた学生を対象として行った調査の結果について報告する。

2. 調査内容と方法

調査の概要を表2に示す。調査対象者は札幌市内の福祉系専門学校介護福祉科および社会福祉科の学生46名である。全員が2〜3回の施設実習を経験している。調査は2008年10

月から11月に、家政学実習（被服）の授業の一部として行った。授業時に、実習先で入所者の衣生活に問題が無かったかを問いかける設問と、問題点（選択肢）が書かれたプリントを使用して、自記式で行った。使用したプリントの内容を図3に示す。前述したが筆者は以前から、施設実習を終えた学生に対して入所者の衣生活をユニバーサルファッションの視点から考える授業を行ってきた。学生とのやり取りを重ねるうちに、平易な問いかけ方をすると、学生自身が具体的な事例を問題として把握しやすいことがわかってきた。また個々の事例を聞きまとめていくうちに、学生が現場の衣生活で問題と感じた事が集約されてきた。今回はそれらを整理して、設問および問題点の選択肢項目に使用した。

3. 調査結果

衣生活における問題点の集計結果を表3に、各項目の具体的な事例の抜粋を図4に示す。

問題点として回答数が多かったものは「B. 衣服の着脱（着替えなど）に介助が必要である（58.7%）」「G. 着る服を本人以外の人が決めている（52.1%）」「A. 着替えに時間がかかる（45.6%）」の3項目で、約5割が問題点に挙げていた。続いて回答数が2割以上となったのは「C. 体に合うサイズの衣服が無い（26.1%）」「F. 本人の意思で新しい衣服を買うことができない（21.7%）」「H. その他の原因（21.7%）」の3項目であった。残りの2項目の回答割合は「E. 外出時に着る服が無い（10.8%）」「D. 好きな衣服を着ることができない（1.5%）」であり、回答数ゼロの項目は無かった。

「H. その他の原因」の内容には、衣服の汚れや劣化、損傷に関するものが多く挙げられていた。また個々の事例の中にも、同様の記述が多かった。このことから、第三者から見て着用に問題を感じるほど衣服の状態が悪い、という実態があることが新たにわかった。そこで具体的な事例の分類では、「衣服の状態が悪い」を新たな問題点として項目に加えることとした。

学生から挙げられた具体的な事例には様々なものがあつた。また「D. 好きな衣服を着ることができない」「G. 着る服を本人以外の人が決めている」の事例は、記述内容から問題点が共通すると判断されたため一つにまとめた。

4. 考察

4-1. 衣生活における問題点の分析

「A. 着替えに時間がかかる」「B. 衣服の着脱（着替えなど）に介助が必要である」「C. 体に合うサイズの衣服が無い」の事例を見ると、（1）“ゆとり”のある被服、（2）“伸縮性”のある布地や“ゴム”を使った被服、（3）“着脱しやすい形”が工夫された被服があれば、解決できるものが多いと考えられた。（1）“ゆとり”は、障がいや身体状態によって適した分量が違うため、個々人に合わせて必要なゆとりのある被服を選択する必要がある。（2）“伸縮性”があるかないかは、着脱のしやすさに大きく影響する。ウエストや袖口などの開口部に“ゴム”が入っているもの、またニット（編地）やポリウレタン混紡布など、布地自体が伸び縮みするものは、着る側も着せる側も楽である。（3）“着脱しやすい形”は、不自由な部位によって様々な工夫が可能である。ラグラン袖やドルマン袖は拘縮があっても袖入れがしやすい。ボタンの着脱が困難であれば、ファスナーやマジックテープにする。下衣はウエストにゴムを入れると、片手でも着脱しやすくなる。また着脱しやすいように、脇や肩の縫い目を利用して開口部をつくる工夫もある。その場合は、開口部が目立たないようなデザイ

ンにする配慮が必要である。

このような被服の工夫に関する知識は、現場で共有されているのだろうか。福祉系の専門学校や大学を出た者、またホームヘルパー講習の受講者であれば、これらの知識を学んでいるはずである。調査を行った学生にそのことを尋ねると、あまりの忙しさに考えたり質問したりする余裕も無く、あつという間に毎日が過ぎ実習が終わった、という答えが多かった。仮に知識があるとしても職員が忙しすぎて、入所者の衣生活の向上まで手が回らない、という施設生活の現状が推測された。

また、「D.好きな衣服を着ることができない」「G.着る服を本人以外の人が決めている」「E.外出時に着る服が無い」「F.本人の意思で新しい衣服を買うことができない」「衣服の状態が悪い」の事例を見ると、入所している高齢者や障がい者（すなわち当事者）の中には、被服へのこだわりを見せる人がいる一方で、汚れても着替えさえしやうとしない人もいることがわかった。病気が原因の場合もあろう。しかし認知症ではない人でも、着替えをしたがらない人が多かったと証言する学生も多数いた。これらの事実からは、当事者は果たして我々が考えるような「自分らしい衣生活」を望んでいるのか、当事者にとって「自分らしい衣生活」とは何なのか、という新たな問いが発生する。被服は社会におけるコミュニケーション手段であり、人がどんな被服を欲するかは、その社会での自分の位置づけの反映でもあるからである。当事者は現在の衣生活に満足しているのかどうか、問題は感じていないのか、改善の要求はあるのか、当事者に直接聞いて明らかにしなければならない。

4-2. ユニバーサルファッションアドバイザー（仮称）の提案

ユニバーサルファッションの実現を目指して施設での衣生活全般を改善するのであれば、現場にユニバーサルファッション（UF）の知識を持った助言者（アドバイザー）が必要であろう（仮にUFアドバイザーと呼ぶ）。まず、当事者とUFアドバイザー、そして介助者が話し合って、当事者の意向を尊重して支援内容を決める。そしてリフォームやオーダーメイドによって必要な被服を整え、衣生活の改善を進める。また、会いたい人や出かけたい場所があってこそその“おしゃれ”であるから、当事者も参加して施設行事の見直しを行い、外部との交流を増やしてゆく。衣生活をきっかけに改善の範囲を施設生活全般に広げる事によって、QOLの向上や社会参加を促進する効果も上がると考えられる。

課題は、リフォームやオーダーメイドとそれに伴う試作品の費用の問題と、UFアドバイザーの人材の問題である。UFアドバイザーは、ユニバーサルファッションに関する専門知識の他に、製図・デザイン、リフォーム・縫製の知識と技術があることが望ましい。必要な費用をどう確保し、人材をどのように育成するか。そのためには、ユニバーサルファッションを必要とする当事者に被服費用を補助する福祉制度の確立や、UFアドバイザーのような資格を設立し取得可能な教育課程を組むなど、システムを作ってゆくことが重要だと考える。現に、ユニバーサルファッションの実現とも深く関わる取り組みとして、装いで外観を変化させ自己概念を強化する働きを利用した心理療法であるファッション・セラピーを実践する「ファッション・セラピスト」資格の設立準備を進めている、という大学からの報告もあり³⁾、今後も注目していきたい。

4-3. 当事者調査の難しさと必要性

今回、施設に入所している当事者である高齢者や障がい者ではなく、施設実習に行った学

生を調査対象にした理由は、当事者に直接調査を行う事が難しいからである。第一に、当事者は自記式調査が困難な場合が多いため、調査員が質問紙に従って聞き取り調査を行う必要があり、人手と時間がかかる。第二に、コミュニケーションに十分な時間をかけなければ、本音を引き出す事が難しいので、長期間何度も通って調査を行う必要がある。第三に、そのような調査を受け入れてくれる施設を探す事が難しい。

しかし、施設入所の当事者が衣生活にどんな問題を抱えているかは、直接本人に聞かなければ、本当のところはわからない。今回明らかとなった問題点は、あくまで学生という外部の人間の視点から把握されたものである。前項（4-1）でも述べたが、当事者がそれらを問題ととらえているかどうか、改善を望んでいるかどうかは、わからないのである。施設での生活では様々な事情があろう。やはり今後は、たとえ種々の困難があっても当事者への直接調査を行う必要があると考える。

5. まとめ

施設実習を経験した学生を対象として、施設入所している高齢者・障がい者の衣生活における問題点の調査を行った。その結果、問題点として挙げた選択肢の中で回答数が多かったのは「B. 衣服の着脱に介助が必要（58.7%）」「G. 着る衣服を本人以外の人が決めている（52.1%）」「A. 着替えに時間がかかる（45.6%）」の3項目であった。他の項目も1.5%～26%の回答があり、回答数ゼロの項目は無かった。また、「H. その他の原因」の内容および個々の事例の具体的な記述の中には、衣服の汚れや劣化、損傷に関するものが多かった。従って、「衣服の状態が悪い」ことも問題点として認識する必要があると考えられた。

今回明らかとなった問題点は、あくまで実習学生という外部の人間の視点から把握されたものであり、施設入所している当事者がそれらを問題ととらえているかどうかはわからない。今後、当事者への直接調査を行う必要があると考えられる。

引用・参考文献

1. 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編著、新訂繊維製品の基礎知識第3部 家庭用品の流通、消費と消費者問題、3-4 頁（2009）
2. 田中直人・見寺貞子著、ユニバーサルファッション―誰もが楽しめる装いのデザイン提案、中央法規、66-69 頁（2002）
3. 泉加代子、心を元気にする衣服-ファッション・セラピーの効果-、「平成 20 年度文部科学省科学研究費補助金 研究成果公開促進費 研究成果公开发表 (B)」による公開講座生活の質を高める衣服-健康で自立した高齢期を過ごすために-、14-17 頁（2009）

表1 被服の役割

役 割	内 容 と 例
1. 保健衛生上	<div> <div>体温調節</div> <div>身体防護</div> </div> <div> <div>体温調節(冬服、夏服、雨着)</div> <div>危害から身体を守る(肌着、耐熱服)</div> </div>
2. 生活活動上	動作を能率的にする(寝衣、運動着)
3. 社会生活上	<div> <div>道徳儀礼上</div> <div>標識類別上</div> <div>装飾審美上</div> </div> <div> <div>社交親和を円滑にする(礼服)</div> <div>秩序維持(制服)</div> <div>自己表現(おしゃれ着)</div> </div>

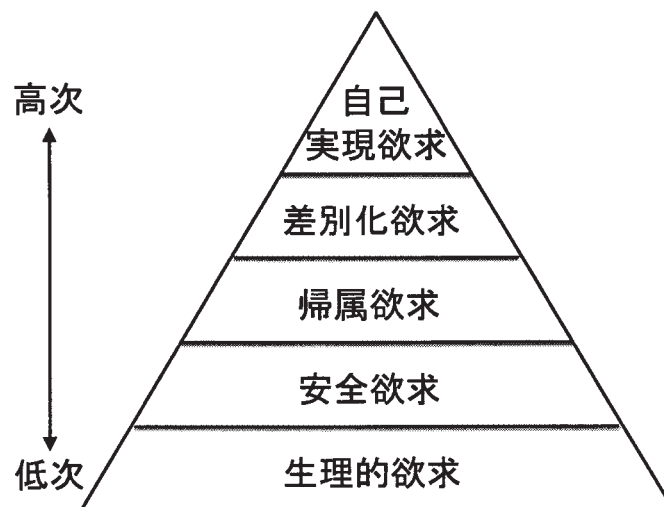


図1 マズローの欲求の階層理論

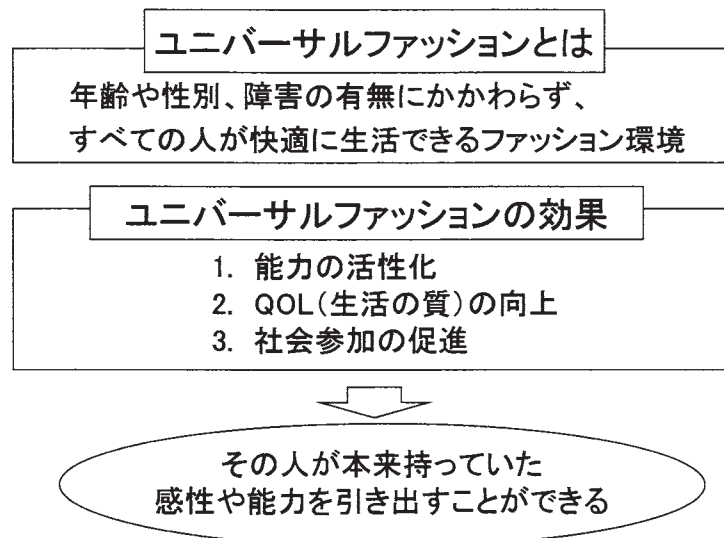


図2 ユニバーサルファッション

設問 実習先の入所者の衣生活で「困ったな」「どうかならないかな」と感じた問題は無かったですでしょうか。下に例を挙げますので、該当するものに○をつけて具体的な内容を余白に書いてください。

選択肢

- A. 着替えに時間がかかる
- B. 衣服の着脱(着替えなど)に介助が必要である
- C. 体に合うサイズの衣服が無い
- D. 好きな衣服を着ることができない
- E. 外出時に着る服が無い
- F. 本人の意思で新しい衣服を買うことができない
- G. 着る服を本人以外の人(介護者や家族など)が決めている
- H. その他の原因

図3 プリントの内容

表2 調査概要

調査の時期	2008年10－11月
調査対象者	札幌市内の福祉系専門学校生 46名
調査の方法	設問に従って本人がプリントに記入

表3 集計結果

項 目	回答数、% (複数回答)
A.着替えに時間がかかる	45.6%
B.衣服の着脱(着替えなど)に介助が必要である	58.7%
C.体に合うサイズの衣服が無い	26.1%
D.好きな衣服を着ることができない	1.5%
E.外出時に着る服が無い	10.8%
F.本人の意思で新しい衣服を買うことができない	21.7%
G.着る服を本人以外の人が決めている	52.1%
H.その他の原因	21.7%

A.着替えに時間がかかる

・着替えに時間がかかるのは、麻痺があるので仕方ないと思う。ボタンなどにはそれなりの工夫はあった。／・杖歩行が可能で着脱も自立している人が、ベッドからタンスまでの距離が長く、服を選ぶにもイスに座って休み休み選んでいたため、時間がかかっていた。

B.衣服の着脱(着替えなど)に介助が必要である

・全介助の人はトレーナーを着ている場合が多く、着脱することが大変で、慣れるまで時間がかかった。／・服をはこうとしたり、ズボンを着ようとしていたりしていた。／・寝たきりの人はベッド上で着脱していたから、体交しながらで時間がかかった。／・ズボンのウエスト部分がゴムじゃなく、介助をする際に立位が不安定で支えていないといけなのに、ズボンが下の方にあり、取るのに困った。／・着脱の際、伸縮性の無い服をうまく着せることができず、時間がかかった。

C.体に合うサイズの衣服が無い

・関節拘縮と可動域制限がある人に、上衣を着せる介助の際にサイズがギリギリで、腕を通す際にポキッと折れるのではと怖がりながら介助を行った。もっとゆとりのある服だと安全にできると思った。／・身長が高い女性で、家族の人に服を買って来てもらっているが、ズボンの丈が短く、似合うかどうか気にしていた。／・入浴の際、体に合うサイズが無く、着脱時に服がきつくて着替えに時間がかかってしまい、利用者の体が冷えてしまった。／・四肢麻痺で全介助の人がタイトな服が好みで、思うように着替えが進まない。風呂上がりの場合は湿っているため余計に手間も時間も要した。

D.好きな衣服を着ることができない G.着る服を本人以外の人(介護者や家族など)が決めている

・着替える時に介助者が適当に服を選んで毎回着せていた。時間が限られているのかも知れないが、もう少し本人に何が着たいのか確認してもいいと感じた。中には服の種類をかなり持っている人もいたが、いつも同じ服を着ている人もいた。／・入浴などの際に、本人は着るものを選んでくれないので、介護者が本人の好みの衣服を選んでいった。／・認知症の人には一切どのような服が良いですかという問いかけはなかった。介助者の意思であまりコーディネートも考えられない状態で日常着を着ていた。ただし、外出の際は本人と話し合ったり、組み合わせを考えながら選んでいた。

E.外出時に着る服が無い

・衣服はトレーナーばかりで外出用は1着しか無かった。衣服にこだわっている人はいた。／・外出の機会が限られているため、外出用の服が無い。
・職員の手が足りなく、好きな服を買いにいけないので、外出時は毎回似た様な服となってしまう。

F.本人の意思で新しい衣服を買うことができない

・自力で歩ける人は何ヶ月かに1回来る業者さんから自分の着たい服を選んで買っていた。それが出来ない人は、家族が持って来たり、送ってきたりしていた。／・外出できる状態では無かったり、外出する機会が作れない。／・認知症の重度で全てに介助が必要な場合、基本的に家族が買い、介助しやすいように大きめの服を着ることが多い。

H.その他の原因

・体温調節がうまくできない人が夏なのに寒いとセーターを着ていた。／・夏にもかかわらず服を重ね着し(5枚くらい)、説明すると枚数を減らしてくれるが、気がつくともた着ていることがあった。

<新設>衣服の状態が悪い

・着替えたがらず、洗濯もしたがらない人がいて、何日も同じ服を着続けており、汚れていることもあった。／・服を着替えるのがおっくうで、替えてくれない。／・介助をして「新しいのに替えましょう」と言っても、「このままで良いですよ」と言って汚れた下着をはいてしまう。／・食事などで汚れても、着替えたばかりだからという理由で着続ける人がいた。／・服の数が少ないので、汚してしまうと替えが無い。／・外出着と普段着が別々になっているので、普段着がとても汚くボロボロな人もいた。／・トイレ介助の際に引っ張るので、ズボンが伸びきっていることが多い。／・破れている服を着ている人もいる。／・家族との関わりが薄い人ほど衣服は伸びた状態のままであることが多かった。

図4 具体的な事例(抜粋)